

## 第33回社会言語科学学会研究大会 プログラム

◎1日目 2014年3月15日(土)

9:30	受付開始〔4号館1階 玄関ホール〕
10:00	開会
10:00-11:40	研究発表(口頭発表) セッション1〔4号館3階 301教室〕 セッション2〔4号館3階 302教室〕 セッション3〔2号館1階 101教室〕 セッション4〔2号館2階 201教室〕
11:40-13:00	昼休み(理事会)
13:00-13:05	開催校ご挨拶〔4号館1階 101教室〕
13:05-13:25	大会発表賞授賞式〔4号館1階 101教室〕
13:30-14:30	徳川賞授与式および記念講演〔4号館1階 101教室〕 ○ 優秀賞 対面説得事態における対人コミュニケーション・チャンネルに関する研究— チャンネルの使用とその効果 横山 ひとみ(大阪大学大学院人間科学研究科/日本学術振興会), 大 坊 郁夫(大阪大学大学院人間科学研究科) ※横山ひとみ氏は, 現在, 東京農工大学大学院工学研究院先端情報科 学部門に所属. ※大坊郁夫氏は, 現在, 東京未来大学モチベーション行動科学部に所属. ○ 萌芽賞 中国貴州省の掛け合い歌「山歌」におけるコードスイッチング—言語交 替と文化復興のはざままで— 梶丸 岳(国立民族学博物館)
14:30-14:40	休憩
14:40-17:40	シンポジウム〔4号館1階 101教室〕 言語的マイノリティーへの情報保障 登壇者: あべ やすし(愛知県立大学)、岩田 一成(広島市立大学)、田 中 英輝(NHK放送技術研究所)、田中 牧郎(国立国語研究所) 指定討論者: オストハイダ・テーヤ(関西学院大学)、松尾 慎(東京女子大 学) 司会: 庵 功雄(一橋大学) 企画提案者: 森 篤嗣(帝塚山大学)、西尾 純二(大阪府立大学)
18:00-	懇親会〔4号館1階 レストラン・ラパス〕

◎2 日目 2014 年 3 月 16 日 (日)

<b>9:30</b>	<b>受付開始</b> [4号館1階 玄関ホール]
<b>10:00—12:30</b>	研究発表 (ポスター発表) セッション 1 (10:00—11:15) [4号館・2号館2階連絡通路] セッション 2 (11:15—12:30) [4号館・2号館2階連絡通路]
<b>12:30—13:45</b>	昼休み (各委員会)
<b>13:45—16:00</b>	研究発表(口頭発表) セッション 5 [4号館3階 301教室] セッション 6 [4号館3階 302教室] セッション 7 [2号館1階 101教室] セッション 8 [2号館2階 201教室]

◎口頭発表

○1 日目 2014 年 3 月 15 日 (土)

・セッション 1 [4号館3階 301教室] 司会：中東 靖恵 (岡山大学)

<b>10:00—10:30</b>	<b>会話におけるミスコミュニケーションへの解釈的アプローチ—ビジネス接触場面における日本語会話から—</b> 梅村 弥生(東京大学)
<b>10:35—11:05</b>	<b>A Comparison of the Speech Acts of Japanese and English Speakers in Discussions</b> 塚本 亜美(大阪大学)
<b>11:10—11:40</b>	<b>非英語圏在住日本語母語話者の言語生活：デュッセルドルフ、上海の場合</b> 平高 史也(慶応義塾大学)、木村 護郎 クリストフ(上智大学)、福田 牧子(バルセロナ自治大学)、福田 えり(慶應義塾大学)、岩本 綾(信州大学)、王 雪萍(東京大学)、島田 徳子(武蔵野大学)、古谷 知之(慶應義塾大学)

・セッション 2 [4号館3階 302教室] 司会：多々良 直弘 (桜美林大学)

<b>10:00—10:30</b>	<b>記述回答結果から見る県内高校生の地域の言葉の使用について</b> 佐々木 香代子(琉球大学)、尚 真貴子(沖縄国際大学)、狩俣 幸子(琉球大学)
<b>10:35—11:05</b>	<b>メキシコシティ日系コミュニティにおける方言接触：単語読み上げと会話データにみるガ行子音の変異</b> 奥村 晶子(東京大学)
<b>11:10—11:40</b>	<b>方言イメージの形成過程：関東方言話者の北海道方言に対する印象評価を事例として</b> 井筒 美津子(藤女子大学)、井筒 勝信(北海道教育大学)

・セッション 3 [2号館 1階 101 教室] 司会：森 篤嗣（帝塚山大学）

10:00－10:30	歌の長さを決めるものは何か：中国・日本・ラオスの掛け合い歌における 談話構造比較 梶丸 岳（日本学術振興会／国立民族学博物館）
10:35－11:05	パプアニューギニアのアメレ語は「時間」をどう使用するのか 野瀬 昌彦（滋賀大学）
11:10－11:40	語りに立ち現れる「今ここ/過去」の重なり：台湾原住民族の語りから 荻原 まき（立教大学）

・セッション 4 [2号館 2階 201 教室] 司会：本田 弘之（北陸先端科学技術大学院大学）

10:00－10:30	「ユカライリ」か「ウクレレ」か？：メディアトークにおける成員カテゴリー化 古川 敏明（大妻女子大学）
10:35－11:05	発表中止（発表者の都合による辞退）
11:10－11:40	在日上海語圏新華僑の言語生活に関する研究 張 琨理（慶應義塾大学）

○2日目 2014年3月16日（日）

・セッション 5 [4号館 3階 301 教室] 司会：柳田 直美（一橋大学）

13:45－14:15	いじりコミュニケーションを構成するフローについての質的検討と場を構成する人数、関係性についての量的検討 瀧澤 純（首都大学東京）、望月 正哉（日本大学）、澤海 崇文（東京大学）、吉澤 英里（青山学院大学）
14:20－14:50	グループホームのカンファレンスにおける理解共有構造の分析－相互行為の組み立てとグループホームの介護職員としての活動に着目して－ 城 綾実（国立情報学研究所）
14:55－15:25	鮎屋における多重的な作業への従事と注文の伺い 平本 毅（京都大学／JST）、山内 裕（京都大学／JST）
15:30－16:00	小学校外国語活動における三者対話の分析 岡本 真砂夫（兵庫教育大学）

・セッション 6 [4号館 3階 302 教室] 司会：竹口 智之（サハリン国立総合大学）

13:45－14:15	言い淀んだ時の行動－対面テストにおける日本語学習者の発話、ジェスチャー、視線の行方－ 川上 ゆか（金沢大学）
14:20－14:50	対話のインターアクションが談話のアウトプットに与える影響：日本語母語話者による聞き手発話の刺激と効果 吉田 悦子（三重大学）、竹井 光子（広島修道大学）、渡辺 文生（山形大学）
14:55－15:25	評価発話に対する日本語非母語話者の対処に関する研究 劉 礫岩（滋賀県立大学）、細馬 宏通（滋賀県立大学）
15:30－16:00	アメリカ英語の girltalk におけるアクティブリスニングストラテジー 梅津 直子（青山学院高等部）

・セッション7 [2号館1階 101教室] 司会：阿部 新(名古屋外国語大学)

13:45-14:15	初対面会話における「私～思った」発話の二重性行為 張 承姫(関西学院大学)
14:20-14:50	否定疑問文による評価ターン構築の基盤と認識性 杉浦 秀行(茨城大学)
14:55-15:25	「の(んですか)」Wh-疑問文による行為の組み立て: 認識的責任の観点から 黒嶋 智美(明治学院大学)、横森 大輔(日本学術振興会/名古屋大学)
15:30-16:00	否定疑問形式「動詞+ないか」の使用動機に対する語用論的解釈 馬 穎瑞(北海道大学)

セッション8 [2号館2階 201教室] 司会：生天目 知美(東京海洋大学)

13:45-14:15	疑問詞「なんで」の相互行為上のはたらき—カードゲーム中に起こった「なんで」の事例から— 中村 香苗(淡江大学)
14:20-14:50	感動詞とそれに続く発話の音調パターンと発話機能に関する一考察— 「大丈夫」の2つの機能を手掛かりに— 須藤 潤(同志社大学)
14:55-15:25	立命館日本語学習者会話コーパスにみる接触場面における「よね」の機能 大久保 加奈子(京都府立大学)
15:30-16:00	自然談話における間投用法の終助詞「さ」の機能—文末における間投用法の「さ」を中心に— 丸山 理恵(アリゾナ大学)

◎ポスター発表

○2014年3月16日(日) 10:00-12:30 [4号館・2号館2階連絡通路]

司会：榎本 剛士(金沢大学)、坊農 真弓(国立情報学研究所)

セッション1(10:00-11:15)		セッション2(11:15-12:30)	
P-01	話し手による参与者への指さしについて: 多人数会話の例から 安井 永子(名古屋大学)	P-11	小説における「ですね」などの相槌の使用開始時期に関する推論 白井 勢津子(青山学院大学)
P-02	大学生における自称詞使用の様相と自己の一致感 白石 優子(早稲田大学)、鈴木 晶夫(早稲田大学)	P-12	「女子」の加齢現象: 女性誌の対象年齢別にみる読者の姿 笠谷 英芳(神戸市外国語大学)
P-03	同じ話を成立させる語—「桃太郎」を「桃太郎」として成立させる語彙— 保田 祥(国立国語研究所)	P-13	地方議会会議録コーパスにおける出現確率の相関を用いた文末表現の地域差の分析 高丸 圭一(宇都宮共和大学)

P-04	米国の日本語教育における「会話データ分析」の活用— <i>Japanese Language and Literature</i> 誌掲載論文の分析を基に— 増田 将伸(甲子園大学)、中井 陽子(東京外国語大学)	P-14	日本語の「好み」に関するやりとりにおける不同意 高井 美穂(摂南大学)
P-05	留学の価値の発掘 ~留学の苦労や困難が大学生に与える影響の調査から— 進 大璽(IES Abroad)	P-15	コミュニケーションに根差したクリエイティビティ: 集団的作曲行為の談話分析 永井 那和(立教大学)
P-06	談話的「不均衡」はいかに解消されるか 片岡 邦好(愛知大学)、池田 佳子(関西大学)	P-16	言われのない非難場面における謝罪の意識と言語行動—日本人社会人・日本人学生・留学生の比較から— 末田 美香子(文教大学)
P-07	日本在住英語母語話者のコードスイッチング 平野 圭子(北九州市立大学)	P-17	ビジター・セッションに参加する日本人学生の期待と参加の意義 尾沼 玄也(神田外語大学)
P-08	留学生と日本人学生を結ぶネットワークシステムにおける交流の実態と課題—日本人学生へのアンケート調査から— 上原 由美子(神田外語大学)、尾沼 玄也(神田外語大学)、今 千春(神田外語大学)	P-18	外国人留学生を取り巻く地域語環境についての一考察 篠原 亜寿美(宮崎大学)
P-09	発表中止(発表者の都合による辞退)	P-19	フィリピン・アルタ語の社会言語学的状況と言語危機 木本 幸憲(京都大学)
P-10	沈黙解釈の多義性について: 同一会話に対する複数のトランスクリプトの比較を通して 種市 瑛(立教大学)	P-20	日本語教育における会話データ分析の意義—豪州モナッシュ大学関連研究者の研究の分析から— 宮崎 七湖(早稲田大学)